

2018アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [観音寺市立観音寺小学校] 担当教諭名 [木谷 厚子] (5年3組 29名)

相手国・地域 [ウガンダ]

海外学校名 [Goshen Primary School Kisoga] 担当教諭名 [Iduude Noah]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	アートマイル国際交流	16
	外国語活動	学校生活を紹介しよう	4
	図画工作	自己紹介カードを作ろう 絵をぬろう	9

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	文化理解と尊重。そして一緒に築く新しい未来。
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	おたがいの文化のすばらしさを理解し、尊重し合いながら未来に向けて仲良くしていきましょう。そして、平和な新しい未来を一緒に築き上げていきましょう。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> まず、自然や生活の様子など、目に見える異同を見つけることによってそれぞれの特徴に気づくことができた。さらに、本やインターネットで調べたこととつないで異同の理由を考えることで、それぞれの文化が根付く自然や歴史があったことに気づくことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 機器的な面でスカイプ交流ができなかったのが残念。ビデオ交流によって相手が確かにいるという実感はもてたが、やはり直接交流がしたかった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> ほとんど知らなかったウガンダが、ビデオ交流などを通して、身近な存在となった。アフリカの音楽について発表した学習発表会の内容ともリンクし、興味関心が高まった。 3クラスがペルー、パキスタン、ウガンダと違った国と交流し、掲示等でその様子を伝え合ったので、異国に対する興味や関心が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> フォーラムやビデオを使っでの交流など、児童と一緒に楽しんで取り組めた。クラスにセネガル人の親をもつ児童がいるが、同じアフリカでも文化の違いが大きいことに驚いた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	7月 ～ 9月	自己紹介カードの紹介やビデオでの学校紹介を行った。 夏休み中にお互いの児童写真と名前の呼び方を交換した。	1学期中に自己紹介カードを作成した。まだ相手意識は薄いですが、英語での自己紹介カード作成で海外の学校と交流をしていくという意識が高まった。夏休み中にウガンダのことや日本のことを調べ、交流への期待感を高めた。	図工4 総合2 外国語2
共有 テーマ学習	9月 10月	お互いの学校生活の様子や時間割をフォーラムに写真やビデオで紹介しあった。 お互いの文化について、調べ学習を進めた。	学校生活を比べることで、学習する教科、給食や制服等、似ているところがたくさん見つけられた。違いに目が向きがちだが、セネガルを故郷にもつクラスメートの解説もあり、その土地にあった生活の様子に納得し、知恵に感心しているようであった。	総合6
融合 想いを形に ・メッセージ ・壁画デザイン	11月	日本のすばらしさを紹介するビデオづくりを行った。 壁画のテーマをそれぞれの文化のよさを紹介しようということになった。	日本紹介のビデオを自然、祭り等の行事、食文化、遊びに分かれて制作した。伝えたいことがたくさんあるようで、内容や台詞を絞ることがたいへんそうであった。	総合4 外国語2
創造 壁画制作	12月	テーマが良く現れるようにと、壁画のセンター部分の描き方を日本側から提案した。	下描きから彩色まで、全員が積極的に取り組み、楽しみながら丁寧に仕上げることができた。	図工5
評価 振り返り 自己評価	3月	交流を踏まえ、「ウガンダ再発見」というテーマで新聞づくりを行った。 校内の目立つ所に掲示し、全校生が鑑賞できるようにした。	これまでの交流や調べをふり返りながら、ウガンダについて本やインターネットで調べ直した。内容理解が進んでおり、より深く調べたり友達に説明したりする場面が多く見られた。	総合4

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とともついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	先生が手応えを感じた場面・理由
自文化を理解する力	4	何をどう表現したら相手に伝わるのかを考え、調べ直すことで理解が深まった。
異文化を理解する力	4	写真やビデオで伝え合うことで、相手との異同に関心をもち、理解を深めようとした。
情報活用能力 (収集・まとめ・発信)	4	本やインターネットでウガンダのことや日本について何度も調べ直すことで、内容理解が深まり、友達への解説等、自発的な発信が多く見られた。
コミュニケーション力 (双方向・共感・英語)	3	日本の紹介ビデオ作成で、英語を話す必要感をもって発表の準備ができた。
批判的に思考する力 (客観的・批判的視点)	3	学校生活や文化の異同から「なぜ違うのか」「なぜよく似ているのか」と疑問に感じ、考えることができた。
主体的に考え行動する力	4	ビデオレター等で、どうすればよく伝わるのか考え、実物を用意したりクイズ形式にしたりと工夫ができた。
他者と協働する力 (学級内・海外の相手)	4	彩色の際には、自分のパーツにこだわりをもちつつ、全体の色合いに気を配りながら作業ができた。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画デザイン)	3	構図や彩色では、どうすれば相手国に日本文化の良さがよく伝わるのか工夫しながら取り組むことができた。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	4	相手国の絵を読み取る中で、互いの自然や文化の異同に気付き、これから一緒にどのような未来を築いていけるか考えた。